

## 知事所信表明（オリンピック・パラリンピック関係追加発言おこし）

最後に、2020年東京オリンピック・パラリンピックについて、私から皆様に申し上げたいことがございます。

私が知事に就任して4か月が経ちましたが、就任直後からソチ冬季大会の視察、IOCプロジェクトレビュー、北京市訪問などの機会を通じ、開催都市の長として招致計画をどのように実現していくべきか、考えてまいりました。オリンピック・パラリンピックは、世界最大の国際競技大会であるだけでなく、開催都市の社会や文化にも大きな変革をもたらす一大イベントであります。それゆえ、大会の成功はもとより、大会後の東京に有形無形の財産を残し、都民生活の向上に結びつける確かなビジョンを持って取り組むことが求められております。

今後、開催基本計画の策定にあたり、招致の時点で作成した会場計画が、都民の理解を得て実現できるよう、私は知事として、改めて自らの視点で、内容を再検討してまいります。その視点として、例えば、招致計画では、東京都は10の競技会場を新たに整備することとしておりますが、これらの施設整備が大会後の東京にどのようなレガシーを残せるのか、広く都民の生活にどのような影響を与えるのか、現実妥当性をもって見定めていく必要があります。加えて、顕在化してきました建設資材や人件費の上昇など、整備コストの高騰への懸念にも対応していかなければなりません。今後、こうした視点から早急に見直しを行い、大会準備に支障をきたさないよう、改めるべき点は、適切かつ速やかに改めてまいります。

この間、大会組織委員会の森会長とも同様の視点から協議を重ねた結果、会場計画全体についても見直すべきとの結論に至りました。大会組織委員会と東京都は、緊密な連携の下、再検討作業を進めていきたいと考えております。

東京は、安全確実な大会開催とアスリートファーストの理念を掲げて、厳しい招致レースを戦い、開催都市の栄誉を勝ち取りました。今後、大会組織委員会と共に再検討を進めていく過程で、IOCや国内外の競技団体とも真摯に議論を行い、招致段階の理念を具現化していくことで、史上最高の大会としていく決意でございます。